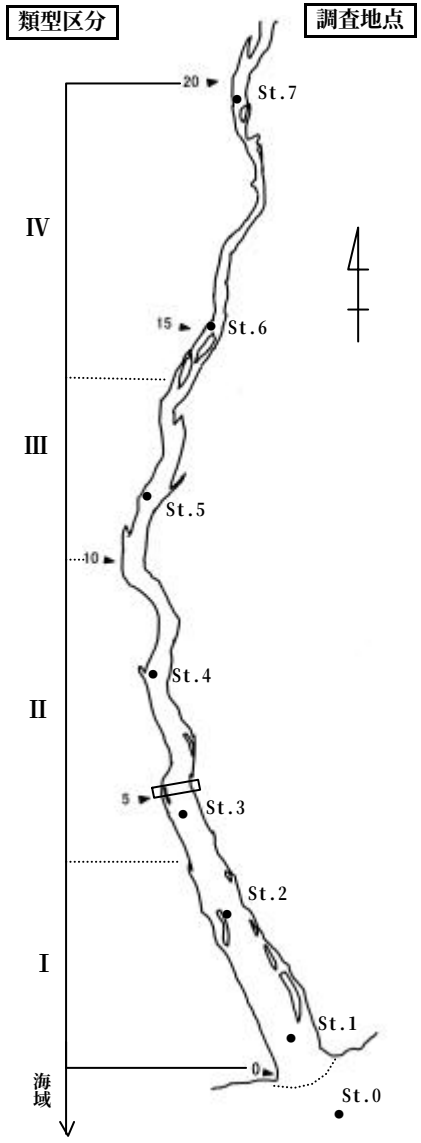

図－2.4　既存の調査地点と想定した類型

表－2.1　類型区分と生物群集の関係

河口からの距離（km）	感潮域の範囲	河川の形態	想定した環境類型区分		相観	現地の状況										生物群集の状況																									
						既存調査地点	塩分		粒度組成		底質	河川状況				魚類												底生動物													
							表層	底層	泥分（%）	砂分（%）	礫分（%）	瀬	淵（深み）	ワンド	干潟	ニゴイ	カマツカ	アユ	オイカワ	フナ	モツゴ	ウグイ	ボラ	マハゼ	スズキ	ヒイラギ	シロギス	サッパ	コノシロ	トビケラ類	ハモンユスリカ	ヒメカゲロウ	イトミミズ科	ユスリカ類	ホトトギスガイ	カワザンショウガイ	エドガワミズゴマツボ	ヤマトシジミ	多毛類	ヨコエビ類	ホソウミニナ	アサリ
16～20	淡水域	河原、早瀬、平瀬、淵、ワンドが分布する。	流水域	IV	河原が多く、所々に瀬が分布し、他の類型区分に比べ流れが速い。河川敷には河畔林もみられる。	St.7	0.00	0.00	1	11	86	●	●	●		●	●	●	●			●								●	●	●										
14～16						St.6	0.00	0.00	1	15	84	●	●	●		●	●	●	●			●									●											
10～14		流れが緩やかで、淵やワンドが分布する。	流れの緩やかな淡水域	III	流れが緩やかで、河川敷にはオギやヤナギ林も生育する。	St.5	0.00	0.00	1	22	77		●	●		●	●			●	●	●	●		●							●	●	●								
7～10	潮汐の影響により海水の遡上がみられる。	川幅が広く、上げ潮時には逆流することもある。	塩分の低い汽水域	II	干潟的環境があり、水際には広いヨシ帯もみられる。高水敷は人工的改変が進んでいる。	St.4	3.50	16.50	2	30	68		●							●		●	●	●	●												●	●	●	●		
4～7						St.3	10.22	24.31	10	36	54				●							●	●	●	●	●									●	●	●	●	●	●		
2～4			塩分の高い汽水域	I		St.2	18.85	29.00	20	50	30			●	●								●	●	●	●	●	●							●		●	●	●	●		
0～2						St.1	26.40	29.30	4	95	1			●	●									●	●	●	●	●	●						●				●	●	●	
－	－	－	海水域	海域	海岸には砂州がみられ、海浜性の植物が生育する。河口沖に浅瀬がある。	St.0	30.20	31.80	36	57	7	－	－	－	－											●	●	●	●									●	●	●	●